

内視鏡外科手術は従来の開創手術を刷新したイノベーションであることに異論は少ないが、日本と欧米では発想やその後の発展が異なっている。まず、本邦では1980年代になっても、内視鏡外科手術という発想は見られなかったが、欧州では同時多発的に類似した概念が唱えられている。また、欧米では先を争うように新たな内視鏡下手術式が報告され、DaVinciに代表される新たな発想による機器の開発も盛んであった。イノベーションジレンマは1997年にクレイトン・クリステンセンが唱えた実証研究に基づくイノベーションに関する法則の1つである。成功している優良企業ほど目の前の顧客ニーズへの対応に注力して、安定的に収益を確保しようとする。そのため、思いもよらぬ所からの破壊的イノベーションが生じた場合に対処できないという内容である。日本人医師が開創手術において優れた手術技術を有していることは欧米人も同意するところだが、日本オリジナルの術式や機器が少ないことの理由もこの辺りかと見当をつけている。一方、日本が得意とするイノベーションの形もある。東レの炭素繊維、任天堂のファミコンやコマツのKOMTRAXなどである。炭素繊維の可能性は40年前に提唱され、世界で50社が新規参入したが、採算にのらず多くの企業が撤退した。東レの炭素繊維の研究開発は長期に及び、炭素繊維事業は40年間ずっと赤字であった。米国の大企業では、このようなことは考えられない。アンドリュー・タンツァーという経済ジャーナリストが東レのイノベーションの成功を分析し、フォーブス誌に寄稿した論文のタイトルは“The Joys of Having Patient Stockholders (忍耐強い投資家の恩恵)”である。これは、株主の投資スタイルが日米で大きく異なることを象徴的に表している。また、企業と従業員の関係も長期コミットメントであり、研究開発担当者は長期にわたってコツコツと研究開発を継続していくことができる。すなわち日本流イノベーションの強みは長期的コミットメントにあるのだと思う。これを内視鏡手術に敷衍するとすれば、長いスパンでの機器や術式のRefineやロボット技術、消化器内視鏡との協業などを通じた高レベル治療の開発などが思いつく。究極の形は、既に手術と呼べないものとなっているかもしれないが、おそらく日本人にしかなしえないものと勝手に思っている。

(森 俊幸)

日本内視鏡外科学会雑誌

(第20巻 第2号) 2015年3月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

(1部) 定価：本体2,800円＋税 ＊会員には毎号送付されます。

2015年 年間購読料：冊子版16,380円＋税、電子版/個人16,380円＋税、電子版/共有18,840円＋税、冊子＋電子版/個人19,380円＋税、冊子＋電子版/共有21,840円＋税（配送料：医学書院負担）＊会員には冊子版が毎号送付され、学会ホームページから電子版が閲覧できます。

編集・発行：日本内視鏡外科学会（代表：北野正剛）

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞が関ビル18階

日本コンベンションサービス株式会社内

☎03-3503-5917 Fax 03-3508-1302 E-mail: jses@convention.co.jp (担当：野上)

http://www.jses.or.jp

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 18 F-1-4-2 Kasumigaseki, Chiyodaku

Tokyo, 100-0013, Japan ©2015, Printed in Japan

発売：(株)医学書院（代表：金原 優）(本誌担当：水野、安部) http://www.igaku-shoin.co.jp/

http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 / E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎03-3817-5659 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎03-3817-8036 (Fax 03-3817-8044)

・本誌に掲載する著作物の複製権、上映権、公衆送信権、翻訳・翻案権、二次的著作物利用権、譲渡権等は日本内視鏡外科学会が保有します。

・JCOPY (株)出版者著作権管理機構 委託出版物) 本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(株)出版者著作権管理機構 (電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

●原著

胃噴門部粘膜下腫瘍に対する手縫いを駆使した単孔式胃内手術の

手術成績 亀井 文・他 メディカルトピア草加病院外科

●症例報告

Long gap 食道閉鎖症に対する食道延長術・根治術を胸腔鏡下に施行した 1 例 小西健一郎・他 東京大学小児外科
 著明な貧血を呈し腹腔鏡下手術を施行した小腸リンパ管腫の 1 例 武田泰裕・他 町田市民病院外科
 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後の胃管狭窄に対する

HANAROSTENT®の使用経験 鈴木淳一・他 東邦大学医療センター佐倉病院外科
 膿瘍形成を伴う de Garengeot hernia に対し二期的に腹腔鏡下ヘルニア

修復術を施行した 1 例 野々山敬介・他 刈谷豊田総合病院外科
 腹腔内出血にて発見され腹腔鏡下に摘出した PDGFRA 遺伝子変異を伴う

大網 GIST の 1 例 西崎大輔・他 洛和会音羽病院外科
 小児腹部救急領域における臍部ジグザグ切開を併用した

単孔式腹腔鏡補助下手術の有用性 西田卓弘・他 宮崎大学医学部腫瘍機能制御外科学
 HCC に対する TACE・RFA 後に発症した遅発性横隔膜ヘルニア嵌頓に

対し腹腔鏡下手術を施行した 1 例 秋山泰樹・他 北九州市立医療センター外科
 4 回の開腹手術既往のある横隔膜ヘルニアに対して Hybrid VATS

による修復術を施行した 1 例 柳川泉一郎・他 広島大学消化器・移植外科

●手術手技

腹腔鏡下鼠径部ヘルニア修復術（TAPP 法）における工夫

―術後漿液腫予防を中心に 四方祐子・他 高松市民病院外科

他数編の掲載を予定。但し誌面の都合により変更がございます。ご諒承ください。